

ペルー アボカドとブドウの市場が飽和する中で新市場を重視

[FreshPlaza 2025年9月18日](#)

ペルーにおける直近のアボカド及び生食用ブドウのシーズンは、数量の面では良好な結果を示したが、相手国内の生産量の増加、飽和が進む市場、新たな規制要件、代替輸出先の必要性等、業界が直面する課題も浮き彫りとなった。従来の市場以外の選択肢を模索する取り組みが進められている一方で、一部の収穫物のカドミウムの管理は、要求水準の高い市場へのアクセスを確保するための優先事項となりつつある。

イカセレクトフルーツ社の商業マネージャーであるミゲル・アンヘル・オバンド氏は、直近のアボカドシーズンは業界全体の数量増加により困難な状況であったと説明した(以下「」は同氏の話)。国内では供給量が30万トン増加し、業者らは事業戦略の最適化を迫られた。そうした中でも、同社は7千トンを収穫することができ、非常に良好なシーズンを終えることができた。

オバンド氏によると、現在の主な目標は新たな展望の開拓である。「ペルーは米国と中国以外にチャンスを探して目を向ける必要がある。出荷できる期間は短くなっており、最大の利益が得られる場所を見つけるためには、より創造的であればならない。」同氏が挙げた新興市場は、インド、フィリピン、韓国、日本等であり、ペルーの拡大戦略において重要性を増している。

生食用ブドウについては、同社は今シーズン、アレキパ県から150コンテナの出荷を計画しており、競合が少ない早い週のうちに出荷する利点を活用する方針である。オバンド氏は、中国が国内生産の増加により魅力を低下させている一方で、中米地域がペルー産生食用ブドウの主要な輸出先としての役割を強めていると説明した。出荷先は、コロンビア、ホンジュラス、エルサルバドル、コスタリカ、パナマ、ドミニカ共和国等である。「現在、これらの地域にはチャンスがあり、リスクが低い。」

もう一つの重要な側面は、カドミウム濃度の管理である。カドミウムは特定の土壌に自然に存在する元素であり、規制の厳しい市場へのアクセスを制限する可能性がある。「我々はINIA(国立農業革新研究所)と協力し、発生率の高い地域を特定するヒートマップの作成に取り組んでいる。同じ樹にカドミウムを含む果実と含まない果実が生ることがあり、分布の把握は単純ではない。」それに加えて、効果的な対策を編み出すため、特定の農薬等の潜在的な原因についても調査が進められている。

オバンド氏によると、国際競争の中で南米の生産者間の連携強化が求められている。「チリ、ブラジル、ペルーは情報を共有し、価格に影響を与える供給過剰を回避し、単一の輸出拠点として機能すべきである。」

執筆者: ダイアナ・サジャミ

南半球 生鮮果実輸出者協会が果実連合(SFA)に改称

[FreshFruitPortal 2025年9月19日](#)

南半球生鮮果実輸出者協会(SHAFFE)は、南半球果実連合(SFA)へと名称を変更した。これは、同団体が本年初頭より進めてきたブランド転換プロセスの一環であり、地域内の業界関係者全体の利益と統合を目的とした使命を体現するものである。SFAの会長であり、オーストラリア柑橘類協会のCEOであるネイサン・ハンコック氏は、「この新たなブランドによる出発は、業界の利益のより効果的な擁護を可能にするよう、南半球全域の生産者から輸出業者まで、果実業界を真に統合するために計画されたものである」と述べた。

ハンコック氏はさらに、「新たな名称と体制は、生鮮果実業界を一つの力強い声として結集させるという我々の決意を示すものである。我々はもはや南半球果実業界の単なる貿易団体ではなく、その理念の実現に向けて結集した同盟である。」この目的を明確にするため、同団体は新たな会員制度を創設する予定である。記者発表によると、「正会員と賛助会員の区分を設け、南半球の業界関係者と北半球の取引先、さらに世界的な資材とサービスの提供者を結びつけることを目指す」とされている。

同連合の副会長で、ブラジル果実生産者輸出業者協会の技術・事業部長を務めるジョルジ・デ・ソウザ氏は、連盟の新たな使命は、全ての関係者の利益を目的として組織を再始動させるものであると述べた。